

一、变革と対応

Y君

日頃は御無沙汰しておりますが、お変わりありませんか。先日は久しぶりにお手紙をいただき、嬉しく存じます。そして最近の内外の世相に対する貴君の苦悩にいたく心をうたれております。今年の冬は、厳しい寒さに加えて、南日本にさえ豪雪がありました。南九州の一部には地震が襲来して、今に至るも余震が続いておるそうですね。

異常なのは自然ばかりではありません。貴君が指摘されるように世界がおかしいのです。ベトナムの戦争は依然泥沼の中にあつて、いつ果てるとも判りません。ベトナムと北越軍は、南越の全線にわたつて執拗に攻撃を繰り返しております。アメリカも兵力を増強中であると聞いております。朝鮮半島の三十八度線にも、新しい緊張を迎えつつあるということです。

一方、去年の十一月、ドルと並んで世界経済に君臨しておつた英ポンドは、遂に一割五分弱の

平価の切下げを行ないました。これはどう見てもイギリスの転落を象徴するものです。ところが不動の信用を誇っておったドルさえも、慢性的な国際収支の赤字を抱えて、榮觀を許さない破目になってきております。このドル防衛のため、アメリカは、輸入課徴金を課して対米輸入を抑えることを考えておるようです。アメリカに対し三〇億ドルもの輸出国である日本にとって、これは、確かに由々しい問題です。

Y君

問題は外ばかりではありません。国内では、対米闘争を中心としてデモ隊と警官の衝突がしばしば見られます。国会におけるとげとげしい質問や審議拒否は、国会を審議と妥協の場ではなく、むしろ宣伝の場にしてしまつておるように見えます。役所の汚職は跡を絶たないし、その秘密は外部に洩れておるとのことです。米価を含む物価や黄金の騰貴は、硬直化した財政の問題と共に険しい問題として取上げられつつあります。春にさきがけて、大幅のベアを目指した春闘は、今年もまた始まるうとしております。反面、金融引締めは漸く浸透し、倒産件数（近頃は労務倒産という新語も出ておるようですが）は、月々その記録を更新しつつあるようです。

Y君

数えあげれば、いくらでもあります。何とかもつと平和で静かな世の中にならないものか、もと暮らし易い住みよい世の中にならないものかと、嘆息しておるのは貴君ばかりではないと思います。しかし正直のところ、これがあるがままの世界であります。他にわれわれの住む世界はないのであります。もともと世界は、われわれを満足させるようには構成されていないようです。世界は特にわれわれに悪意も好意ももっていないようです。問題はわれわれがこの世界をどうするかということであり、世界は受身の形でそれを見守っておるようです。永い人類の歴史を通して、われわれの先人は、いつの時代においても苦悩と苦闘を重ねてきたのです。何度も何度もその改革を試みては失敗してきたのです。たまたに改革ができたと思つて喜んだ瞬間、また新たな苦悩ができ、みんなが幻滅に泣いたのです。われわれは、こういつた苦悩の深淵にいつも生きておつたし、今後もそれから脱却することはできないと観念するより他に道はないようです。

Y君

そうだとすれば、一体、われわれはどうすればよいのでしょうか。それは、これまで人間が、感じたり経験してきた苦悩であります。この状態をどのように受け止め、それを一歩どういう方

法で踏み越えるかということが問題になります。そこで私は、先輩として、若干の手がかりを返信したいと存じます。これは、とりも直さず、貴君と一緒に時代の苦惱を考えて行こうとする私の心構えでもあるのです。

一、先ず昔はよい時代であったが、今はそうでないと断定することは誤りであると思います。よくよく調べてみると人間の歴史には、いつの時代をとつてみても、今日と較べて、ひどくよかつたという時代はなかつたようです。いつの時代においても、憎悪と争いは、信頼と平和よりも強かつたし、生活の愉しみはその苦しみよりも乏しかつたようです。だから今日だけが悪い時代であるとい概に決めてかからないことが肝心であると思います。

二、次に争いや苦しみには、その因つて来る原因があるはずで、争いや苦しみを嫌悪することは当然であるが、その中で不平を並べることだけではどうにもならないということです。先ずわれわれは冷静に且つ克明に、その原因を究明することから始めなければなりません。そうしないと改善への手がかりを掴むことができないばかりか、下手をすると事態は現状より悪くないかねないと思うからです。

三、ところが、われわれは、性急のあまり、一挙によりよい状態を求めて、それが達成できないと、悲憤慷慨し、場合によっては自暴自棄になりかねないのです。それは賢明な生き方ではな

いと思ひます。先ずわれわれは、現在に不満であつても、現在より悪い状態があり得ることも考へておかねばならないと思ひます。現在より事態を悪くしないためにはどうすればよいかを考へる方が真面目な生き方であり、そのために先ず努力することが大切であると思ひます。

四、そうした用意をしておいて、次によりよい状態を構想し、それに達するための手段を選択按配するのが順序であると思ひます。その場合注意しなければならぬことは、いかなる手段にも必ずプラスとマイナスが伴うもので、絶対的にプラスである手段などというものはないということです。現実にはよりプラスの多い、よりマイナスの少ない手段を工夫することであると思ひます。革命というものはプラスばかりを期待すればこそ、青年の心を奮い立たせるものですが、その結果はプラスよりむしろマイナスが多かつたことを歴史は教えておると思ひます。

五、しかし何事をするにも、貴君が他を責める前に先ず家庭のこと、友人のこと、地域社会のこと、国家のこと、つまり自分より他者のことを先ず頭において考へたり行動したりすることが大切です。人の本當の悦びは、他者を責めることにあるのではなく、他者のために何を奉仕するかにあると思ひます。この世の中の改良と進歩は、一人一人が、先ず他者にどれだけの貢献をするかにかかつております。立派な乳牛も、乳をしぼりとられる許りでは貧血してしまいま

す。この乳牛に栄養を与えることが先ず大切であります。私はここで「乳牛」と象徴的にいいましたが、これが貴君にとつて、国であり、地域社会であり、会社や組合や銀行であり、友人であり、家庭であります。そういうものを乳牛におきかえることによつて貴君の行動の指標がでてまいると思ひます。尚一層考えようではありませんか。人生は汲めども尽きぬ深い泉であるからです。

(咽 四三・三・一一 「雄心」)